

第 2 回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：令和 4 年 7 月 14 日（木）午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで

開催場所：別海町役場 2 階 201 会議室

出席委員：鈴木秋弘、大森和男、武田隆、菅野笑子、平澤珠美、高橋智美

（欠席委員 吉野朋博、佐藤栄子、大橋正汰、今井加奈）

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 議 事
 - 議題 1 前回の振り返り
 - 議題 2 協議テーマの選定
- 3 その他
- 4 閉 会

1 開 会

2 議事

議題 1 前回の振り返り

資料 1 を用い、前回の会議の内容について説明。

意見・質問

なし

議題 2 協議テーマの選定

資料 2 を用い、気になることや疑問点、改善点等を挙げ協議。（ワークショップ形式）

委員長

資料 2 の色分けに沿って上から順に意見を出していきましょう。「情報に関する審議」で何かありますか？

委員

- ・町のホームページがスマホで使いづらい。
- ・SNS が堅い。Facebook も Twitter も全部同じことが書かれているので、使い分けできないか。
- ・中間支援センターはどうなっているのか。

「こういう人材がいる」という情報がまとまっている所があるといいと思う。

委員長

「町民参加と協働に関する審議」で何かありますか？

委員

- ・将来地域活動を担う若者の育成の強化

町内会や漁協青年部、青年団体など若い人の加入が減っている。これから厳しい時代になるので、組織の中で勉強して団体を担う役員や議員を目指す人が現れてほしい。後継者不足を危惧して、将来心配だと思っている。

委員

- ・スポーツ協会の会員数の減

スポーツ協会の会員数が減っていて、競技をしたい若い人たちはいるが、協会に入って運営ということになると消極的になる。

委員

別女連が解散して、地域の女性部も解散になって、何かあるときは農協の女性部の方たちが動く。何かあって人を集めるとなるとものすごく苦勞する。

委員

そういう団体自体が無くなっているし弱くなっているし、個人活動になっている。

委員

- ・青少年・子どものまちづくり参加について 子どもたちと一緒に地域が明るくなるようなことを行いたい！

具体的に子どもたちと一緒にイベントをやって、子どもたちが地域に愛着を持てることをやりましようと思う。実際に今進めている話もある。

委員

- ・世代を超えた町民参加～各学校（小・中・高）での懇談会を開催する。

地域の懇談会があるが、あの対象年齢をぐっと下げて、小学生、中学生、高校生、例えば役場に来てもらうのが大変だったら学校と連携をとって、全学年じゃなくてもいいので子どもたちとディスカッションする場を設けるといい。

委員

- ・町長、教育長の学校めぐり。授業でまちづくりの抱負を話す。

全部の学校は回れないので、1年に何校か回って、授業でまちづくりの抱負を話す。そうすると子どもたちに夢を与える仕事だと思うので、そういう部分では教育的効果っていうのは上がると思う。職員とか管理職と話すのではなくて、町長とか教育長が子どもたちと話すという機会を設けると、子どもたちと町長と役場との距離が近くなると思う。

委員

- ・中央中学校の職場体験、役場希望の子がいなかった？

委員

- ・まちづくり補助金を活用させていただいたが、使い勝手があまりよくなくて、たぶん単発で行うイベントに対してならいいが、ずっと継続していく事業に対してはあまり向いていないと感じた。対象経費についてや、他から助成を受けた場合の返金について等、条件をわかりやすく書き足した方がいいと思った。

委員

- ・議会と行政と町民の信頼関係の構築

コロナ禍というのもあるが、地元町議に会うことがほぼなくなった。議会だよりは見ているが、「このことについてはこういう風にやったほうがいい」という議員の声があってもいいと思う。過去に各地域に回って町長はじめ議員さんが来て町政懇談会をやっていたが、最近やっていないので復活してほしいと思う。

委員

- ・議会傍聴の折り込みチラシ入った時は傍聴する人が多かった。

議会傍聴の折り込みチラシが入った時はすごく傍聴する方が多かった。先日は入ってなかったように思ったので、もうちょっと興味を引くように入れてもらったらいいなど。

- ・懇談会、議会等 オンライン傍聴

オンラインの傍聴ができればもうちょっとみんな気軽に参加できるのではないかな。

委員

- ・情報共有手段は町とのつながり 町内連絡協議会
- ・地元議員との意見交換会 町民と手をとる
- ・地域各町内会と町町内会連合との連携
- ・協働のまちづくりの意識づけ方法

最終的には情報共有っていうのがこの条例で一番強く言っているところだと思う。単純にその情報の手段。ホームページなどいろいろあるが、高齢化がどんどん進んできた中、手段をもう少し考えたほうがいい。各地域コミュニティの中で出た意見を実際に議会なり行政なりに届くように、例えば町の連絡協議会と町長、あるいは町の関係者と各地域の町内会の代表でディスカッションしてもらいたい。その前段として地元の議員との意見交換会っていうのもあって、特別目的がなくても実施できるような環境を作ってもらえればと思う。それぞれの地域に必要な問題点がある、そういうときに関係者を加えて場合によっては子どもたちも加えて町内会という一つの形の中でグループを組んで気楽な立場でやれればと思う。この委員会の目的っていうのはこのような全体を検討するところ。それをお互いに共有できているのかっていうのが疑問。だから議会、行政、町民との太いパイプを作ってほしい。全体的にはその協働のまちづくりっていう意識づけを町民自らがそれぞれ常に心のどこかに持ち続けながら行動をとっていく。

委員

- ・匿名意見の募集方法の模索。気軽に意見が言えるシステム

ご近所の奥さん方の井戸端会議で、「これはこうだったらいいよね」という意見が吸い上げられるというか出せるシステム、場があればいい。

- ・ **パブコメ資料の概要版作成は良い。**

分厚い資料は読めないなので概要版作ってもらうのは良い。

委員長

「**町民・地域コミュニティに関する審議**」で何かありますか？

委員

- ・ **生活困窮者の支援**

支援を受けている人の他にもおそらく調べたらもっといると思う。

- ・ **不登校児童、生徒の問題→行き場所の設置**

いじめとかがあるが、教育現場では課題かと思う。

- ・ **安心・安全なまちづくり 高齢者の見守り活動**

別海町は高齢者が非常に多い。子どもが他町にいる単身者がいて、役場の福祉部局で把握しているが現状は非常に大変で、自分で銀行に行けないだとかそういう人たちもいるので、安心安全なまちづくりをしていくためにはどういう見守り活動をしていったらいいのかというのが課題になるのでは。

- ・ **ひきこもり問題解消**

何人別海町にいるか課題があるかと思う。調べてわかるものではないので非常に難しいと思う。

- ・ **ヤングケアラー問題**

今 AC JAPAN の宣伝で出ている。町の現状はわからないが、社会問題になるということはきっとある。

自治推進委員会の内容とはちょっと違うが、これが別海町には課題として出てくると思う。

委員

色々な分野でやっぱり大きな問題がある。日頃そういうものに携わっていない人間にとってみれば、言われればそう感じるのであって、そういうことがいっぱいあると思う。それをある程度調整できるような形ができればいいけど、現実はそのそれぞれの組織ごとに動かないとならないっていうのがある。

委員

- ・ **80 50 問題、90 60 問題**

これはおそらく議員とか町も関わってくると思うが、80 歳のお父さんお母さんが 50 歳の息子の面倒を見ると、または 50 歳で働いてないんで、80 歳の人を年金を頼って生活するという問題がおそらく別海町も何件かは出てきているのでその部分対策しなければならないと思う。

委員

福祉の部分で今話が出ているが、子どもが障がいを持っていて、心配事があるお母さんたちはどんどん増えてきていると思うが、自分から言い出せないっていう方も中にはいらっしゃるのでは、もう少し福祉の間口を広く、やわらかくして相談しやすくしていただけたらいいと思う。

委員長

それを全部行政に丸投げしてしまうと行政もパンクしてしまうから大変。ひとつひとつ課題をクリアしていけばいいんでしょうけど、できないというもどかしさもある。今出されたことは皆さんの課題として出してもらって、この中身を次回に精査してまとめてもらって、また検討していくっていう方向性を事務局の方から説明をお願いします。

事務局

今の話を聞いて、ジャンル分けすると次世代育成の部分と情報共有の仕方、あとは根幹の部分で、行政も議会もそれぞれ協働のまちづくりの指針に沿った動きを個ではやっているが、それをつなぐパイプの部分はどうしたらいいのか、中間支援センターというのがそれにあたるもので、以前検討していました。町内会の組織だと完全ボランティアになってしまうので担い手というのができないというところで、これを一つの仕事としてできないかと前回検討をしていたと思うが、やはり協働の精神が醸成されていない中でこれをやっても結局うまくいかないから、もう少し時間をかけようということでここにたどり着いてはいないんですけど。

この委員会でも研究してもいいかと思うジャンルの一つではあると思います。行政と地域の間に入る組織っていうのは絶対必要だと。その部分がパイプの部分になってくると思います。あと、地域の担い手がいないというのはこういうところにもつながってくると思うんです。行政が固いから興味を持たれない。だから担い手ができない。行政がもう少し柔らかい表現で情報を出したらどのように思いますか？

委員

Facebook もインスタも Twitter も全部それがきたらどうかと思うけど、Twitter はそれでいいとか決めたらいいのでは。

委員

もう少し砕けた感じでいいと思う。

事務局

YouTube はどうですか？

委員

いいと思う。楽しい大人を子どもに見せるってすごい意味があることだと思う。ユーチューバーとして職場体験受付けるとか。

事務局

行政と議会との関係、住民との信頼関係というのも、行政が主体となると堅くなってしまっているので、この委員会のような感じで議会と町長と町民との柔らかい感じの会議が開催できればいいかと思います。

委員

町政懇談会っていうのは私出たことないからわからないんだけど、偉い人たちが前にずらっという、反対側に町民がいるっていうのはよくないってずっと言ってたけど。

委員

今は変わって、コの字にしたり、向かい合って協議するというのではなくて、一緒に輪の中でやろうという風になってきた。

委員

今までの議会報告会あるいは町長との懇談会でも思うが、その時に即回答しなくちゃならないという意識が強かった。それよりざっくばらんな話をその場で聞いてもらって、それを持ち帰るあるいは答えられるものは答えるっていうキャッチボールを、もっと気楽な形でやってもらいたいということはこの会議の中でも言ってきた。

事務局

先ほど話が出ていたが、地域懇談会は結局要請会になってしまう。本当は意見を交わしたいのに結局要請会になってしまって、意見が聞けない。そこで答えを求め返すのではないというスタンスであればもう少し柔らかい雰囲気のできるのかと思います。

先ほど委員がお話したとおり、自治基本条例は主体となっている意味は3点ほどしかない。その部分をあえて「議会は」「町民は」「行政は」としてしまえばそれぞれの中で守ればいようになってしまうのが今問題なので、その部分をつなぐパイプ役。その部分をテーマにして考えていけたらこの委員会の存在意義になると思います。各地域の担い手の人が協働ということを理解していればどんどん変わっていくと思います。あとは堅くなりすぎないように。広報も堅いですか？

委員

広報はあれでいい。あのくらいじゃないと真面目に読んでもらえない。非常に見やすい。

委員

SNSはもう少し崩れてもいい。

委員

広報のページ増えてもいいのって思う。

事務局

情報を出すことが仕事になってしまうので、行政も工夫しなきゃならない部分もあるかもしれませんね。今まとめたテーマを、あと2回の会議で深掘していくか、それとも全体をつなげるパイプをどうするか、それぞれ個別のつなぎ目をどうしていくのかを中心にまとめていきますか？

委員

深掘するといっても難しい部分もある。ある程度まとめてもらって、この部分については足りないとかある程度課題が出てきたらそれについて次回は検討することでどうか。

事務局

そうですね。今回出された意見、これを協働のまちづくりとして回転させていくためにはどこが足りない、どういう解決策があるかというアイデアを次の会議で。

委員

あるいは整理した段階でメリットデメリットが出てくればそのことについて検討すればいいし、それを整理して再度協議してみる。

事務局

それでは今日はここで終了にしてまとめてみます。
あとから冷静に並べて見たときに、なにが不足しているか、事務局として見える視点と皆さんの立場で見える視点って変わってくると思うので、一度まとめて委員のみなさんにフィードバックしますので、次はそれを考えるということでもいいですか？

委員

それでいいと思う。

委員長

それではこの場で皆さんからたくさんご意見いただいたので、次回まで事務局でまとめていただいて足りないところの確認をして、今回のように皆さんが気楽に話せる場になるよう次回もお願いしたいと思います。

3 その他

特になし

4 閉 会